

三井物産セキュアディレクション、「ランサムウェアの検知および防御技術」 米国特許取得のお知らせ

2021年10月27日、三井物産セキュアディレクション株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：鈴木 大山、以下 MBSD）は、ランサムウェアの検知および防御技術について、2019年に取得した米国特許第10264002号に続き、新たに米国特許（第11159541号）を取得したことを発表します。

現在もなお、ランサムウェア(※)による脅威は世界中で拡大しており、国内外で被害が多発、ランサムウェア攻撃グループによる窃取データの暴露や、ランサムウェア攻撃の影響によりシステムやネットワークが停止し、事業継続に影響を与える事案などが発生しています。

MBSDでは、ランサムウェアの脅威などに対して、攻撃手法や検知・防御手法の技術研究を行っており、今回取得した米国特許もその成果によるものです。

今後も、MBSDは高度なランサムウェアなどの研究成果を活かして、お客様企業のセキュリティ対策を支援いたします。

※ ランサムウェアは、他のマルウェアからのダウンロードや、正規の遠隔操作の仕組み、ネットワーク機器の脆弱性を悪用した攻撃などにより感染します。ランサムウェアは一度感染すると、システム上の一部のファイルまたは全体を暗号化(ロック)し、ファイルの使用または端末の使用を不可能にした上で、暗号化されたファイルを復元することの見返りに身代金 (ransom) を支払うよう要求する脅迫型のマルウェアです。

三井物産セキュアディレクション(MBSD)について

2001年にサイバーセキュリティの専門会社として設立、ペネトレーションテスト/TLPT/レッドチーム、Webアプリケーション/ネットワーク脆弱性診断等の各種診断サービス、マルウェア解析、統合ログ監視/Managed XDR サービス等の高度なセキュリティ技術サービス、コンサルティングサービス等を提供し、日本有数の高度セキュリティ技術人材が多数在籍する企業です。

<本件に関するお問い合わせ先>

三井物産セキュアディレクション株式会社

マーケティンググループ 中山

marketing@mbsd.jp